|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **学校経営推進費　評価報告書（最終）** | | | | |
| **１．事業計画の概要** | |  |  |  |
| **学校名** | 大阪府立長野高等学校　全日制の課程 | | | |
| **取り組む課題** | 英語教育の充実 | | | |
| **評価指標** | 英検準２級・２級の合格者数  G-TEC for students（スコア型英語テスト）における目標スコアの達成率 | | | |
| **計画名** | 「英語による発信能力（話す・書く）」育成プロジェクト | | | |
| **２．事業目標及び本年度の取組み** | |  |  |  |
| **学校経営計画の**  **中期的目標** | 英語教育、国際教育のさらなる充実を図り、グローバル化の進む21世紀をしなやかに生きる生徒を育成する。   1. 英語コミュニケーション能力のさらなる向上に取り組むとともに、論理的思考力・課題解決能力・探究力の育成を図る。   ア　少人数展開を行い、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を実施することにより、一人ひとりが主体的・意欲的に取り組む授業を実践する。ICT機器等を活用し、４技能をバランスよく伸ばす。英検・G-TEC等の試験を積極的に活用する。 | | | |
| **事業目標** | 「読む」「聞く」「話す」「書く」４技能のうち、特に課題がある「話す」「書く」の発信能力を向上させるため、民間の英語教育関連会社（ベルリッツ）と連携し、共同で指導法および教材開発を行う。またそのための学習環境を整える。そして、幅広い話題について発表・討論・ディベートなどを行う言語活動を豊富に体験させ、情報や考えなどを的確に理解し伝える能力を高める。  これらをもって、英検準２級・２級の合格者数を毎年５％ずつ増やすとともに、G-TECの目標スコア達成率を平成29年度に10％、平成30年度には15%、平成31年度には20％とする。 | | | |
| **整備した**  **設備・物品** | 可動式机　　12台  可動式椅子　30台  プレゼンター　６台  書画カメラ　　３台  ホワイトボード一式　２面 | | | |
| **取組みの**  **主担・実施者** | 首席、英語科全員、授業のあり方研究会メンバー（各教科代表者）  実施者：全員 | | | |
| **本年度の**  **取組内容** | 可動式机と椅子、プロジェクター、ホワイトボードを完備したＡＬルームを、通常授業及び放課後の「英語トレーニング講座」で活用し、アクティブラーニングを実施した。  特に「英語トレーニング講座」では、４技能のうち「話す」「書く」を強化した内容で開講した。 | | | |
| **成果の検証方法**  **と評価指標** | ①英検２級の合格者数：40人／準２級の合格者数：70人  ②G-TECの目標スコア（500点）達成率：20％ | | | |
| **自己評価** | ①R1年度の英検の資格保有者は以下のとおり  準１級：1人/２級：28人/準２級：65人 （△）  ②G-TECに表れた成果は、国際教養科２年生の500点達成率93.5％、1年生は98.6%となった。また、普通科２年生の500点達成率は60.1%、1年生は65.7%であった。 （◎）  ・「英語トレーニング講座」については、講座終了後のアンケート結果によると「発信力がついた」と答えた生徒は84.6％であり、昨年度より数値は下がった。受講生徒も講師も昨年度と違っているため、単純な比較は難しく、英語で発信するトレーニングはできたと考える。ただ、特に指導法や教材開発につながる内容とは言えなかった。 | | | |
| **事業のまとめ** | ・英語の４技能のうち、特に「話す」「書く」の発信力を高めるという目的については、この事業によりアクティブラーニングルームの整備が実現したことで、普通教室ではできない様々なアクティブラーニングを実践することができた。  ・特に、今年度末に姉妹校と連携して行ったスカイプによるライブ通信は、生徒のモチベーションを向上させ、学んだ語学力を発揮する良い機会となった。  ・英語教育産業を活用した発信力向上の教材開発に関しては、連携できる予算確保ができなかったため、実現に至らなかった。ただし、授業外で生徒の発信力を高める講座を開講したことで、G-TECの点数UPや英検の合格等にはつながったと考える。 | | | |